

# 地球人の規範へ

地球は、終らず、想つてごらん、ひとりひとりの、現実から、次の別の地球

[www.jomaca.join-us.jp/chikyu\\_kinan.pdf](http://www.jomaca.join-us.jp/chikyu_kinan.pdf)

二〇二二年二月十五日

JOMON<sup>縄文</sup>あかでみい校長 山田 学<sup>まなぶ</sup> ©

※本書面は、二〇一四年十二月〜二〇一五年三月に、公開した、

〈提唱・人間社会規範〉を、改題し、更新しました。

諸民族の調和へ、それを仲介させていただき、日本民族。お肚<sup>なか</sup>の底からの、声とするため、旧かなにて、書かせていただきました。

## 学問発達体

規範漂流、混迷の、地球人は、勇氣もち、方向を、大転換する。

地球人は、眞智を、追究しあふ。眞智とは、健康平和な、現実の認識。それにより、聖愛しあふ。聖愛とは、健康平和な、生活協力。眞智にて聖愛。その悦びへの、勇氣。

健康平和とは、どういふことか。ほんたうに、現実を認識してゐるか。自由に、批評しあふ。おたがひの生活と人生、それぞれの個性を、尊重しあふ。

地球人、ひとりひとりに、眞智、すなはち、健康平和な、現実の認識、これがある。当面、邪智、すなはち、病的戦争な、架空の認識、それもあがるが。

眞智、健康平和な、現実の認識、のみを、調和させあふ。さまざまな生活や生産、から、調和させあふ。人間は、眞智、健康平和な、現実の認識、これの前に、平等なのだ。

邪智、病的戦争な、架空の認識、それは、この数千年間のみ、必要であつた。民族の闘争や、資産階級の闘争。そのために必要であつた。さういふ闘争から、解脱<sup>げだつ</sup>する。なら、必要性が、無くなる。

人間社会を、眞智にて聖愛の協同へ、組織していく。未来にある協同、未来協同だ。

ひとりひとり、眞智、健康平和な、現実の認識の、〈学問と技能と規律と体力〉、これを、自分に増す。さうして、〈世界対応の自由〉、これを、拡張していく。

世界は、あるいは、世界の諸分野は、現象と構造と本質の、統一である。ひとりひとりには、それぞれ、現象の認識や、構造の認識や、本質の認識が、ある。それらを、眞智、健康平和な、現実の認識、この立場から、自覚的に、組織していきあふ。眞智の世界学を、発達させあふ。未来協同は、思考統合の面にて、学問発達体だ。

邪智、病的戦争な、架空の認識、それによる、統制を、解消していく。たとへ

ば、脱レーニンする。ちなみに、脱インシュタインもする。

#### 生産調和体

眞智、健康平和な、現実の認識、これにおいて、諸民族の源流を、探っていく。地球の各域の、生態系、そのうちにおける、諸民族性の生成。その必然について、理解しあふ。また、経営や政治における、今までの、諸民族間の闘争。その必然についても、反省しあふ。その上において、諸民族が調和していく経営、ないし、政治解消を、開拓していきあふ。

この五百年間、先進国の、資本家階級の、資産増殖といふ目的もあり、結果として、人間社会の市場が、統一されつつある。

そろそろ、資産格差の拡大から、資産格差の縮小へ、転換させあふ。未来協同への金融を、発達させあふ。寄付と、融資と、投資だ。生産的な階級の、循環を、促進しあふ。それは、剰余労働量の集積と、寄付の、循環。

労働力、といふ商品。通常商品。貨幣、といふ商品。これらを媒介とし、地球人おたがひの、健康平和な生活、これをこそ、生産しあつていく。

健康平和な生活の、生産力こそを、発達させていく。とともに、病的戦争な生活の、生産力は、衰退させていく。発達させる生産力と、衰退させる生産力の、対立と連関。文明開化にあつた、善と悪の、対立と連関。

聖愛、すなはち、健康平和な、生活協力こそを、発達させる。とともに、俗争ぞくさう、すなはち、病的戦争な、生活妨害は、衰退させる。聖愛と俗争の、対立と連関。未来協同は、生体協力の面にて、生産調和体だ。

なほ、今の生産力が、新しい生産関係を、要請する。病的戦争な生活の、生産力による、被害者。かれらこそが、健康平和な生活の、生産関係を、要請していく。

家庭とは、協会である。恋愛と出産と保育と教育といふ、特殊な労働、それと、生活の休養面、これらのための、協会である。さう、考へる。

同好会とは、休養協会である。職場の分業労働、これを修正する、保健的な労働、また、職場の分業認識、これを修正する、保健的な認識、これらのための、休養協会である。さう、考へる。

職場とは、生活の労働面のための、協会である。地球人おたがひの、健康平和な生活こそを、目的とする、生産調和体。それへ向け、自由に創造していく。さう、考へる。

家庭と同好会と職場の毎日。地球の諸域の毎日。において、おたがひの健康平和な生活こそを、研究しあふ。健康平和な需要、それを発見しあひ、それらに有効な供給こそを、開発しあふ。(ケインズの、逆。)しだいに、人間社会の供給体

制を、希少者の、資産増殖といふ目的から、全員の、未来協同といふ目的へ、再編していきあふ。次の社会への、再編。むろん、供給体制の根本として、地球環境のあり方が、ある。最低費用にて、野性の復興を、する。

#### 道徳共同体

人は生れ、やがて、老い、あるいは、病ひともなり、いづれ、死ぬ。個人の、生活ないし人生を、とくに、その体内のあり方を、現実の人間社会発達と、どう、つなぐか。冥想する。現実の世界進化と、どう、つなぐか。冥想する。健康平和な、姿勢動作や、呼吸や、食事や、人間関係や、精神や、生活環境。これらを、子々孫々にわたるまで、追究しあひつづける。さういふ、道徳共同体を、はじめ。これが、情感安定への道、である。保健といふ能力のある認識。これを、追究しあひつづける。未来協同は、情感安定の面にて、道徳共同体だ。薬物なごに、頼らず、人と人が、安心を高めあふ、共同体。

人間の、生理的進化としての体内感覚にもとづき、地球人の各自が、健康平和な生活を、復興していく。快か、不快か。体内が、調和してあるか、ゐないか。地球人の各自が、この認識にもとづき、健康平和な、姿勢動作と、呼吸と、食事と、人間関係と、精神と、生活環境を、復興していく。そして、おたがひの矛盾の解決として、健康平和についての研究を、調和させていく。無<sup>む</sup>といふ、理想。不快が無い。体内の不調和が、無い。これを追求する、理想。

普遍的に、人間は、特殊的に、各民族は、個別に、各自は、眞智、健康平和な、現実の認識、これを追究しつづけるため、生活の瞬間瞬間、が、どうあればよいか。姿勢動作は、どうあればよいか。呼吸は、どうあればよいか。食事と排泄は、どうあればよいか。人間関係、とくに異性関係は、どうあればよいか。精神は、どうあればよいか。生活環境は、どうあればよいか。地球人の各自が、それぞれ、死ぬるまで、工夫しあひつづける。これを、冥想生活、と言ふ。冥想生活が、すなはち、保健である。冥想生活において、道徳を発達させる。生理にしたがふ、悦び。

世界の現実を反映してゐる認識、それが、現実の認識である。世界の現実を反映してゐない認識、それが、架空の認識である。ただし、人間の健康平和にとり、それが架空の認識であると、自覚した、架空の認識は、有益であることも、ある。それは、睡眠中の夢や、覚醒中の芸術内容などにて、ある。

体内の調和を、想ふ。体外への対応を、想ふ。さうして、眞智、健康平和な、現実の認識を、発達させる。苦しみ悩み、それを、楽しみ悟りにする、さういふ、呼吸をする。常に、おたがひの実力不足を、お詫びしあひつづける。生活と生産の、すべてのご縁を、ありがたく、受け取りつづける。地球人はおたがひ、世界、

すなはち、体内と体外と認識したい、すなはち、生活と生産と自然と宇宙、に、感謝し、対応ないし適応していく。

道徳といふ生活規範は、個々人に属する。道徳共同体の運営や指導にて、可能なのは、道徳そのものでない。道徳案、道徳の提案のみである。

ともかくも、資本制社会生活から、解脱していく。ひとりひとりの自覚、無理のない、無駄のない、自然な修業。これこそを、なしあふ。

食欲や、性欲や、資産欲や、地位名誉欲。それらの量を、希少者としてのみ、悲しく、高めるより、それらの質こそを、全員協同として、楽しく、高めあふ。

#### 民衆通信

諸民族は、各時代や、各域の生態系にもあはせ、多彩な生活方法や、生産方法や、世界観や、倫理、これを、展開してきた。それらの現実史を、なるべく知る。そして、地球の民衆通信を、形成していきあふ。まづ、理屈ぬきに、おたがひ、似てゐるか、似てゐないか。情念融和を、追求しあふ。祖先追想道の、すすめだ。その上にて、先述の、思考統合や、生体協力や、情感安定を、追求しあふ。未来協同は、情念融和の面にて、民衆通信だ。つまりは、民族地理学として、民衆参画を促進する。

言語や貨幣の形式、それにとらはれ、その内容、すなはち、意味や価値といふ社会関係、これを、正しく理解しない。つまり、地球人がおたがひの、認識と労働、これを、正しく理解しあつてゐない。さういふ現状を、反省する。意味とは何か。これを、ひろく深く理解した言語へ。価値とは何か。これを、ひろく深く理解した貨幣へ。さう、変革していく。

#### 政治解消世論

この数千年間、国家といふものは、誠に残念ながら、部族ないし民族闘争と、資産格差拡大のための、組織として、発展した。社会の敵対性こそを、保護し統制する、伝統なのであつた。社会の敵対性、そのものを、しだいしだいに、解決していく。さういふ、まうひとつの、公共。これをこそ、民間から、創造していく。情念融和のためだ。既成の国家や政治、それらを、しだいしだいに、先述の、学問発達体（思考統合の面）、生産調和体（生体協力の面）、道徳共同体（情感安定の面）、民衆通信（情念融和の面）、へ、止揚していく。継ぐべき内容は、保存し、問題な形式は、否定する。すなはち、政治解消世論も、結集していきあふ。根源からの、言論。革命でなく、次の社会を、新設する。闘争から調和へ。

未来協同が、創造されていくにつれ、諸国家は、しだいに、その機能を縮小し、最後は、解消される。理性ある〈地球共栄〉を、創造していく。地球公会と、そ

のうちに、各種の協会と、個々人が、ある。公会の資産と記録、協会の資産と記録、個人の資産と記録、がある。公会のそれらや、協会のそれらを、協同運営する。私的な協会は、家庭、同好会、職場。公的な協会は、学問協会、生産協会、道徳協会、政治解消協会。

地球公会にある、学問指導部、生産指導部、道徳指導部、政治解消指導部が、公的な協会の、それぞれを、思索先導する。思索先導に、自由な、質問と意見と修正案を、調和させる。次の社会への、思索報道。

地球公会にある、民衆指導部が、公的な協会の、すべてを、情念先導する。情念先導に、自由な、反発を、調和させる。次の社会への、情念報道。

眞智にて聖愛の、規範と学問と祈りと芸術と養生。つまり、善と眞と信と美と健。その中心網たる、本格の都市団を、地球に、創つていく。

### ご提案

以上の意志へ、統一していく規範を、地球人の規範として、ご提案申し上げます。(規範は、主体的な意志の、客観的な調整。) どう、統一していくか。皆みなさまによる、創意工夫にも、期待させていただきます。この指にとまれ。

人間の、〈認識と表現と労働と生産と休養〉。これらを、未来協同、眞智にて聖愛へ、統一してまいります。架空の来世、でなく、未来協同を、現実化してゆく。

資本制人社会の、効用。希少者が、統制しつつ、〈交通〉のうち、建築と運輸と金融と通信を、本格発達させた。今、〈交通〉のうち、不足してゐるのは、未来協同への、ご提案なのであり、それへの、全員参画なのだ。これが、脱統制の、最終の希少性、なのだ。地球の〈交通〉が、成熟するにつれ、職場時間が、短縮し、同好会時間や、家庭時間が、伸長する。健康平和だ。からだところの健康と、こころと社会の平和。問題は、GDPでなく、人生の質、ないし、生活の質なのだ。眞智にて聖愛の、断捨離なのだ。悦びとしての、労働そのものの、骨の芯からの休養。その、くりかへし。次の別の地球への、眞剣勝負。気象と大地の安定も。愚直に、希望を、開拓する。健康平和連帯。これを構築する、といふ、問題解決。今でなく、未来の、常識と正当へ、つづけ。

未来への公会指導部、これが、あなたのためにできる〈こと〉。そのみを、問はないてください。あなたのはうから、未来協同のために、できる〈こと〉。それこそ、問うてください。ITを、上手に、使ふべし。ITは、人間を、統制できぬ。また、無規範好みも、永続せぬ。市場を調和させるのは、地球人の規範。

(お断り) 本書面は、一部、沖正弘師(1919～1985)の、用語を、山田学なりの、意味

あひにて、用ゐせていただいてをります。また、沖師が、師事した、マハトマ・ガンジーの想ひ、それを、山田学なりに、継承させていただいた。そのつもりで、ございます。非暴力といふ、大転換。